

「今月のテーマ ～かぼちゃ～」

10月31日は「ハロウィーン」でしたね。キリスト教の万聖節のお祝いで、アメリカなどではカボチャをくり抜き、目鼻口をつけた提灯を飾り、夜には怪物などに仮装した子供たちが「Trick or treat (いたずらかお菓子か)」と近所を回り菓子を貰ったりするそうです。日本でも最近ではクリスマスと共にメジャーなお祭りになって来たようで、お店などでもかぼちゃ商品があふれています。ということで今月のテーマは「かぼちゃ」です。



『にこにこかぼちゃ』
安野光雅 童話屋

『かぼちゃ人類学入門』
川原田 徹 福音館書店



『かぼちゃひこうせん
ぷくらこ』
レンナート・ヘルシング
アリス館



今月の一押し？

『名もなき毒』 宮部みゆき：著 幻冬舎



あらゆる場所に「毒」は潜む。どこにいたって、怖いものや汚いものには遭遇する。それが生きることだ。財閥企業で社内報を編集する杉村三郎は、トラブルを起こした女性アシスタントの身上調査のため、私立探偵・北見のもとを訪れる。そこで出会ったのは、連続無差別毒殺事件で祖父を亡くしたという女子高生だった。

三年ぶりの現代ミステリー、待望の刊行！

開館時間が変わっています!!

6月から開館時間が変わっています。また、水・木曜日は休館日となっておりますので、お間違えのないようにお願いします。

開館時間 10:00~17:00
休館日 毎週 水曜日・木曜日
と 祝祭日

☆問い合わせ先

西栗倉村教育委員会 あわくら会館図書係まで
TEL 0868-79-2216

e-mail: n-kyouiku@vil.nishiwakura.g.jp

図書館へ行こう!

10月の新着本

児童書

◎ どうぞのいす

作：香山美子 ひさかたチャイルド

うさぎさんが小さな椅子を作ります。「どうぞのいす」という立て札と一緒に大きな木の下に置きました。初めにやってきたらばさんが、持っていたどんぐりを椅子に置いて木の下で一休み。気持ちよくて眠ってしまいます。それから次々に動物たちがやって来ます。椅子の上に置いてあるどんぐりを食べて、代わりに持っていたはちみつを…。はちみつを頂いて代わりに…。らばさんが目を覚ました時、いすの上にあったのは…?



◎ 教室はまちがうところだ

作：蒔田晋治 子どもの未来

「おんなじことをくりかえすうちに、それからだんだんどきりがやんで、言いたいことが言えてくるのだ。はじめからうまいこと言えるはずないんだ。はじめから答えがあたるはずないんだ。」全国の学校で愛されつづけてきたあの詩が、すてきな絵本になりました！子どもたちを「まちがうことをおそれちゃいけない」と励まし、まちがうなかで「ほんとのものを見つけていくのだ」と語りかけます。



◎ 風にふかれて

文：今江祥智 BL出版

アフリカのひろい空に、風のつよい夜のこと。ゾウのあかちゃんがうまれました。バオバブの木のように大きくつよくなあれ、というねがいをこめて、バオバブと名づけられました。ところがあくる朝、バオバブはなんと、とうさんゾウより大きくなっていて…。

心がさわやかな風にふかれるような絵本。



一般書

◎ 隣の若草さん 著：小林信彦 文芸春秋

母親の渡仏で主婦役を引き受けた24歳の次女・桃子さん。にぎやか四姉妹と寡黙な父一人、毎日大騒動の五人暮らしを老犬「元帥（げんすい）」がちよっぴりナナメに見守ります。

新聞連載時より各地で話題沸騰！待望の単行本化。



◎ ヘヴンリー・ブルー

著：村山由佳 集英社

19歳の歩太と27歳の春妃のせつなく激しい恋を描いた『天使の卵』から12年。そして『天使の梯子』から2年。思いがけず姉・春妃に向けた恨みの言葉。狂おしい熱情と悔恨と懺悔。夏姫のモノローグで綴るせつない青春の詩。

映画化もされた『天使の卵』、もう一つの書き下ろし作品。



◎ 赤い指

著：東野圭吾 講談社

犯罪を超えたその先に、本当の闇がある。2日間の悪夢と、孤独な愛情の物語。

「この家には、隠されている真実がある。それはこの家の中で、彼等自身によって明かされなければならない」

直木賞受賞第1作。書下ろし長編小説。

